



SUPERVISOR / 井上隆邦
 亀山トリエンナーレ監修・前三重県立美術館長
 COMMENT / 今回の展示は旧館家という「和の空間」が舞台であり、そこに現代美術が
 関入しました。

亀山トリエンナーレ2017

Pre-Exhibition



亀山トリエンナーレは次回、2017年に開催を予定しています。

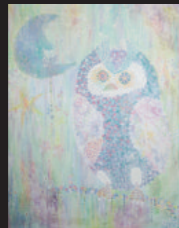
2015年はプレ企画展示を亀山市の文化財である旧館家で行いました。

旧館家は東海道沿いにある当時のおもかげを残した古い商家。

13組のアーティストたちが、この空間を生かした展示になりました。



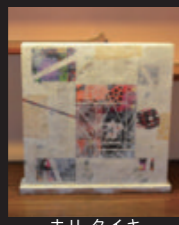
井谷 うらん



岡本 優希



CAKE HARA



堀 タイキ



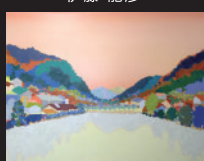
市川 雄康



田川 真奈美



山崎 亜記子



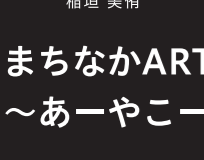
伊藤 龍彦



堂本 清文



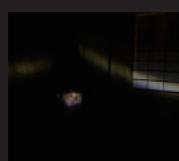
吉永 蛭



稲垣 美侑



平松 典子



ろくいち

ARTIST / 井谷 うらん
 COMMENT / 第1回のアート亀山から去年の亀山トリエンナーレで制作した作品は、蝶・コウモリ・てんとう虫・馬・人・蜘蛛等といきものを
 イメージしたオブジェやインスタレーションの展示となりました。今年のイベントでも亀山での「場」と「いのち」のコラボを形にします。

ARTIST / 市川 雄康
 三重大学教育学部美術学科卒業。
 個展、日仏現代美術展、中日展、アートフロンティア 96 現代日本の視覚展、アートフォーラム三重展など。
 COMMENT / 9枚1組の作品を床に並べて展示します。
 生と死、陽と陰などのイメージを「結果」として表現したいと思います。
 土壁や黒柱の薄暗い2階部屋に響きあう空気感を感じてください。

ARTIST / 伊藤 龍彦
 多摩美術大学卒業。2000年 安田火災財団奨励賞展 優秀賞他。
 COMMENT / 亀山トリエンナーレの前年から毎回参加しています。前回の館家展示では館のプロデュースをせよということで、
 微力ながら皆様のお手伝いをさせていただきました。今回も、素敵な展示になるといいな、と思っています。

ARTIST / 稲垣 美侑
 東京藝術大学美術学部 絵画科油画専攻卒業。2014年～東京藝術大学美術学部 美術研究科 絵画専攻 在籍。
 COMMENT / ここにはなにもない なにもないがどこまでも広がりが 広がる先々にすべてがある ここにはすべてがある
 ふかく、豊かに、そこここの声 すべては有り余るほどにうつくしく 今日もまた、陽は暮れる

ARTIST / 岡本 優希
 COMMENT / 油絵を学びながら花や動物をテーマにずっと描き続けています。館家での展示は、歴史ある建造物のもつ空間と絵画が
 響き合えば嬉しいです。亀山に住み、地域の魅力を日々感じるこの頃、今年も多くの方に亀山を知って頂きたいです。

ARTIST / CAKE HARA
 京都出身、日本やメキシコにて活動。祖父の出身地が三重という事からも縁あって、アート亀山には第1回から参加。
 COMMENT / United we stand, divided we fall. 分裂すれば墮落する。さあ、皆で団結しよう、さらば我々は立ち上がれる。

ARTIST / 田川 真奈美
 COMMENT / 植物を染めて、作品を作っています。染める対象の植物そのものだけでなく、それまでの歴史がなければ色は存在しません。
 今、見ることができる色に感謝し、その先にある色につながってほしいと思っています。

ARTIST / 堂本 清文
 名古屋芸術大学美術学部 絵画科洋画コース卒業。国内にて個展・グループ展を多数開催。
 2012年7月1日～2013年 ビジュアル・アーティストのための国際的なワークショップ in GULUDSTED.
 COMMENT / 「旧館家は幕末から大正にかけて呉服商を営んでいた大店で、・・・」と書かれてあります。
 構造が複雑で風格がある日本家屋、旧館家の趣を存分に体感して展示作品を鑑賞していただけると嬉しいと思います。

ARTIST / 平松 典子
 三重大学教育学部美術教育コース卒業。小学校講師をしながら作家活動中。
 COMMENT / アート亀山、亀山トリエンナーレに関わる中で、地元である亀山の良さを再発見する事ができました。
 今回の展示でも、良さを発見できるように、展示を楽しみたいと思います。

ARTIST / 堀 タイキ
 愛知芸大油画科卒。東海方面にて活動。
 COMMENT / 2015 EWAAE 日英欧交流展 (東京)、2014 亀山トリエンナーレ (三重) 他等。
 歴史とアート。今回、私の作品を通して相対的な反応を望んでいます。

ARTIST / 山崎 亜記子
 COMMENT / 制作を続けていく中で、私はいつ頃からドローイングカメラになりました。
 今回は、記録として、記憶として亀山を元にドローイングをします。私(達)の亀山であり別の亀山かもしれない場の一種の記憶写真を描きます。

ARTIST / 吉永 蛭
 2011年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。
 COMMENT / 夢と現実を行き来しながら、「見たい風景」をテーマに描いています。複数の風景が全体で一つの新しい風景となる作品を展示します。

ARTIST / ろくいち
 武蔵野美術大学建築学科卒のアートユニットです。
 COMMENT / 文化財である日本家屋(茶室)において、光の揺らめきを用いた表現を提案します。

まちなかARTサミット ～あーやこーや亀山で語ろう～

まちなかで「場」を生かした美術展を開催している5団体が、地域でのアートの可能性など
 ディスカッションしました。アートと人と街。関わり方の原点を共に考えました。

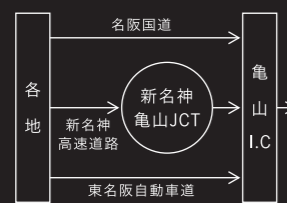
参加団体
 夢みるアート展(奈良)岩崎伸一
 歌となる言葉とかたち展(郡上八幡)伊藤茂
 木津川アート(木津川)加藤史江
 くまの古道美術展(紀伊長島)リンダ・デニス
 亀山トリエンナーレ(堂本清文)

- 日時 / 10月11日(日)14:00～16:00
- 場所 / 加藤家屋敷跡[文化財建造物](亀山市西町)
- 定員 / 50名(立ち見になる場合もあります) 運営上、協賛を募っています。
- 協賛券取扱所 / 猫の館(東町)tel.090-8550-8318
 しぼりや(東町)tel.0595-82-0410 岡田屋本店(西町)tel.0595-82-0252
- 問い合わせ先 / 亀山トリエンナーレ事務局090-8950-3011(森) 亀山市文化スポーツ室0595-84-5079

●アドバイザー / 井上隆邦(亀山トリエンナーレ監修・前三重県立美術館長) ●コーディネイター / 田島悠史(宝塚大学・大学院専任講師)

*亀山トリエンナーレ実行委員会は「パフォーミングアーツ亀山」に協力しています。パフォーミングアーツ亀山 9月21日(月)18:30～ 亀山市文化会館 <http://rayorb0209.wix.com/pakameyama>

■ 展示会場のご案内
 旧館家住宅
 〒519-0153 亀山市西町410
 加藤家屋敷跡
 〒519-0159 亀山市西丸町545-1
<http://ktriennale.jimdo.com/>

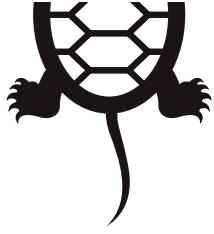


- ① 旧館家住宅
 - ② 加藤家屋敷跡
 - ③ 亀山城跡
 - ④ 亀山市役所
- 展示場所案内マップ
 QRコードでアクセス



亀山トリエンナーレ2017

Pre-Exhibition



亀山トリエンナーレ2017プレ企画展示 ～ART・時空を超えて～

日時	2015年 9月21日[月・祝] - 11月29日[日]	場所	旧館家住宅 入場無料
日時	10:00 - 16:00 土曜日・日曜日・祝日のみ開館	場所	[文化財建造物・亀山市西町]

■参加作家 / 井谷 うらん[三重] 市川 雄康[三重] 伊藤 龍彦[三重] 稲垣 美侑[仏・留学中] 岡本 優希[三重] CAKE-HARA[京都] 田川 真奈美[京都] 堂本 清文[三重]
 平松 典子[三重] 堀 タイキ[岐阜] 山崎 亜記子[神奈川] 吉永 蛭[神奈川] ろくいち[東京] ■主催: 亀山トリエンナーレ2017実行委員会 ■後援: 亀山市・亀山商工会議所



作品展示を終えて 2015.9.20

プレ企画 ～ART・時空を超えて～

「亀山トリエンナーレ2017」をめざして2015年はプレ企画展示～ART・時空(とき)を超えて～を開催しました。

明治の初めから呉服商(枳屋)を営んでいた東海道沿いの旧館家。現在は亀山市の文化財建造物として保存され、往時の佇まいを残しています。今年度は、監修者である井上隆邦さんによって選出された13組のアーティスト(亀山トリエンナーレ参加作家)が旧館家の空間に作品を展示しました。「和の空間に置かれた現代アート」は、斬新でドキッとする面白さがありました。まさしくそれは「化学反応」そのもの。土曜・日曜・祝日(9. 21 ～ 11. 29)だけの開館でしたが、約1,500名の来場者に時空(とき)を超えたARTを愉しんでいただきました。

10月11日には、まちなかで「場」を活かした美術展を開催している5団体が集まって「まちなかARTサミット～あーやこーや亀山で語ろう～」を開催しました。

5団体の代表者がそれぞれの地域での活動を紹介。そのあと、田島悠史さんのコーディネイトでディスカッションを行いました。

地域のなかでのアートの可能性を探るには。アートは生活者にどのようにかかわれるのか。社会はアートによって変革するのか。

「地域とアートと人」の原点を見つめなおす充実したサミットになりました。

各団体の皆さま、参加していただいた皆さま、ありがとうございました。

「亀山トリエンナーレ2017」を見据えて、2016年には参加アーティストを選考するコンペとアートディスカッションを開催します。2008年から2014年まで開催してきた「アート亀山」から数えて8回目のアートの祭典「亀山トリエンナーレ2017」はもう、間近に迫ってきています。実行委員一同、2016年は「亀山トリエンナーレ2017」に備えて万全を尽くし準備の年に致します。

ご協力いただきました亀山市をはじめ、関係者の皆さまに、心よりお礼を申し上げます。

ささやかな記録誌ですが2015年の記録として発行します。

亀山トリエンナーレ実行委員会

BEYOND TIME AND SPACE

アドバイザー
井上 隆邦 亀山トリエンナーレ監修・前三重県立美術館長

第二回「亀山トリエンナーレ」が来年2017年に開催される。

このトリエンナーレの前身である「アート亀山」が初めて開催されたのは2008年だから、かれこれ10年近い歳月が流れたことになる。

この間、一連の企画に参加したアーティストは延べ360組(グループ参加は1組とした)

この事業を通じて新境地を開いたアーティスト、更にはその技を磨くため海外に赴いた若者など、彼らのその後の活躍が印象に残る。

来年の「亀山トリエンナーレ」まであと一年半。準備期間は長いようで短い。多くの方々の協力のもと、内容の濃い展覧会を期待したい。

コーディネイター
田島 悠史 宝塚大学・大学院専任講師

「山椒は小粒でピリリと辛い」ということわざは聞いたことがある人も多いと思う。

ところで、これと同じ意味のことわざは世界中にあるらしい。ドイツなどでは「小箱の中には上質な香油」などと言うそうだ。「小さいものの中に良いものがある」という現象は、ある程度どこでも通用する「真実」なのかもしれない。

・・・だからという訳ではないのだが、国内で実施されている地域アートイベントのうち、ぼくは小粒なものに関わることが多い。

今回の「まちなかARTサミット～あーやこーや 亀山で語ろう」では、「小粒でピリリと辛い」5つの地域アートイベント団体の主催者たちと、コーディネイターとして交流する、貴重な機会を頂いた。

ぼく自信、運営していたことがあるから分かるのだが、小規模地域アートイベントの関係者たちはどうしても閉鎖的になってしまいがちである。外から人を呼んだりする余裕も、外の土地で話す余裕も、実務に直接関係ないことをやる余裕も、小規模アートイベントの主催者には作れないぐらい忙しい。今回はそんな激務の隙間を突き、「社会からの自律」と「社会との共生」の間でアートを続ける知恵を聞くことができたことが一番嬉しかった(もっともっと聞きたかった！)。このような企画を実施した亀山トリエンナーレ関係者の皆様、交流して頂いたアートイベント関係者の皆様には深く御礼を申し上げたい。

あと嬉しかったのが、運営に関わってくれた者の中には、20代～30代前半の若手が多かったことである。

ぼくも30代なのでまだ「若手」と言われる立場だが、やはり20代でなければできない仕事がある。亀山の土地でも、若い人たちが関わってくれていることはとても嬉しい。これからも、もっといろんなことを話したい。一緒に学んでいきたい。

今後の展開としては、今回生まれたつながりを発展させ、小さな地域アートイベントについて「語る場所」が生まれて欲しい。そのためには力を尽くす準備はできています！

まちなかARTサミット
～あーやこーや亀山で語ろう～

2015年10月11日(日)、亀山市西町の加藤家屋敷跡で「まちなかARTサミット～あーやこーや亀山で語ろう」が開催されました。街なかで「場」を生かした美術展を開催している5団体が、地域でのアートの可能性を熱く語り合いました。

アートと人、アートとまち・・・いろんな想いが交差し、さまざま意見が出されました。

夢みるアート展(奈良)岩崎伸一

歌となる言葉とかたち展(郡上八幡)伊藤茂

木津川アート(木津川)加藤史江

くまの古道美術展(紀伊長島)リンダ・デニス

亀山トリエンナーレ(亀山)堂本清文

アドバイザー／井上隆邦(亀山トリエンナーレ監修・前三重県立美術館長)

コーディネーター／田島悠史(宝塚大学・大学院専任講師)



まちなかARTサミット 2015.10.11

岩崎(奈良)

ふとした折に『自分たちのアートイベントのあり方』を考えています。今日もです。きっと、これからも模索しながら。

伊藤(郡上八幡)

歌人と造形作家との新しい出逢い・交流が魅力。歌人なんて普段なかなか会える人たちじゃないですからね。個人的な思いつきで始めたことが、実はおもしろいイベントになりますね。

加藤(木津川)

年々、地元アートイベントが定着しているのが実感できます。ボランティアなど力を貸してくれる人が増えているから、まちの祭りを感じています。

リンダ(紀伊長島)

人と人をつなぐことに興味があります。アートイベントでお世話になっている街に少しだけ恩返しできるんです。

堂本(亀山)

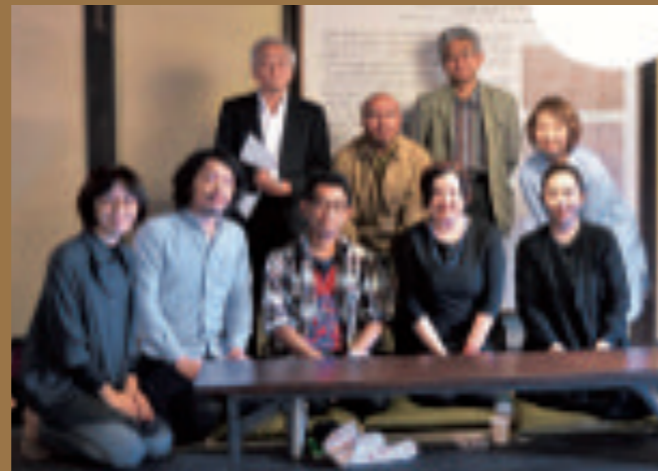
人手やお金は、いつも課題ではある。これからも続けていくから真剣に他の地域の取り組みを聞いてみたいと思いました。亀山でしかやれない、亀山だけのトリエンナーレを目指します。

井上(アドバイザー)

それぞれの地域の特性や文化を活かしているのが面白いところ。どう存続させていくか、運営していくのかも含めて今後の展開に期待したい。

田島(コーディネーター)

これからの日本の主役となるべくは、予算規模が小さい『街のイベント』なんじゃないかと思っています。難しいからこそおもしろさがあるんじゃないですかね。今回生まれた「つながり」を発展させれば、増々面白くなりますね。



展示会場 旧館家住宅

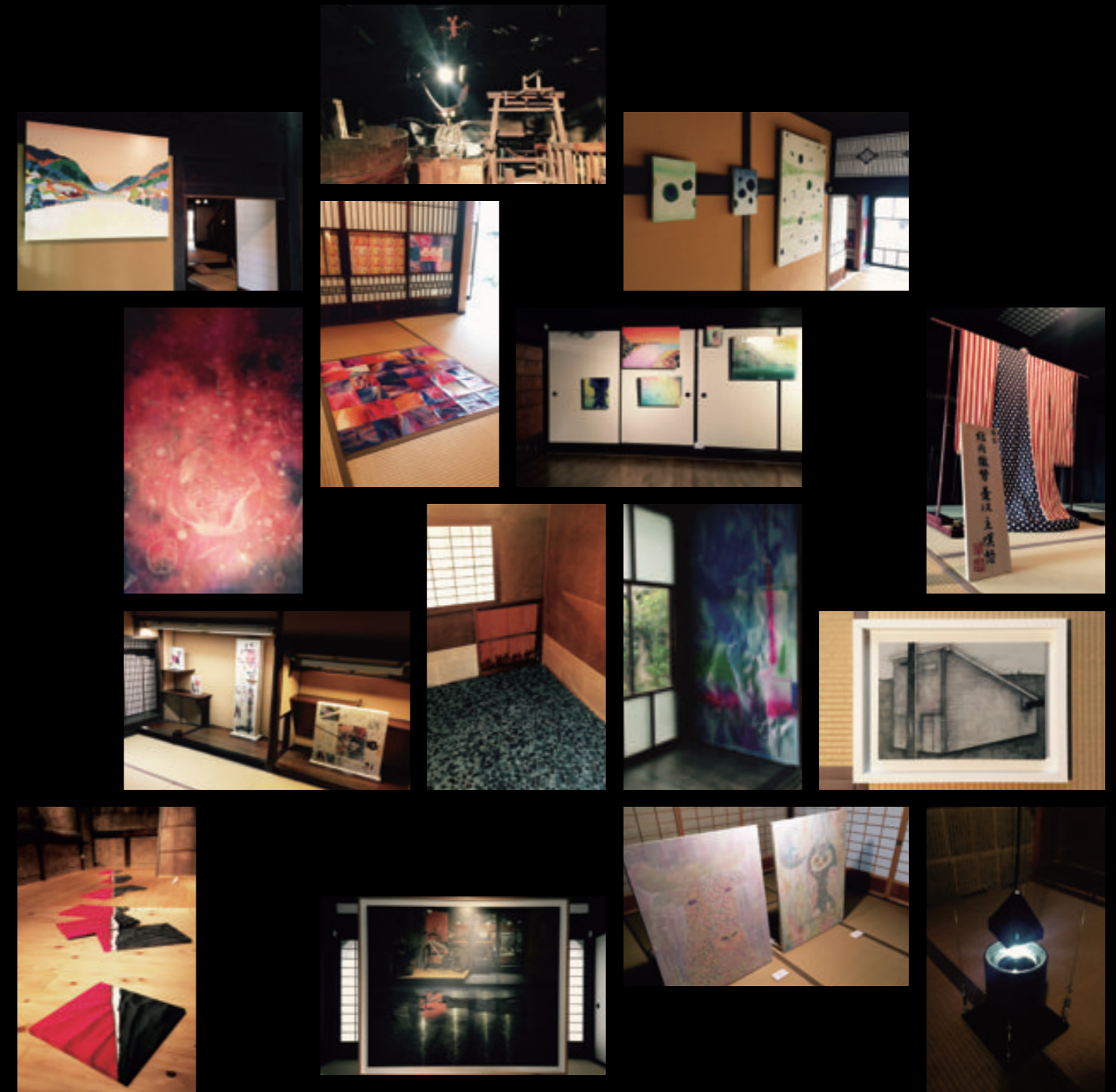
旧館家住宅(枡屋)は、亀山市西町、旧東海道に沿った街道南側にあります。

当家は、同じ西町に所在する館本家の6代目当主である虎介が嘉永年間に隠居分家したことに始まり、4代まで続きます。

枡屋は、大正14年に津市乙部に呉服商の本拠を移すまで、明治期から西町において、地主・呉服商を営んでいました。

平成8年明治学院大学にて同大学名誉教授となり、社会学・社会心理学において大きな業績を残した3代逸雄氏は、当家の保存に腐心し、学生を連れては帰郷していたといいます。

平成17年に逸雄氏が逝去されたことから、亀山市に寄贈され、現在はまちなみ文化財室が管理を行っています。





M E D I A C O V E R A G E



毎日新聞 [2015.10.9 (Fri)]



読売新聞 [2015.9.16 (Wed)]

市民活動ニュース

第174号
2015年10月

秋です！ウォーキングや芸術の季節です！

下庄から一舟田へ稲道を歩こう
 集合 10月11日(日) 10:30 JR下庄駅前
 (JR肥後本線・高宮行 亀山駅10・10分、下庄
 駅10:15発の列車が便利です。)
 下庄→高田本山 午後2時半ごろ現地集合
 下庄の南側には、多くのがやつの稲道がいくつ
 かあります。そんな小道を歩けば、新しくき
 た中野グリーンパークに出ます。稲刈後は田舎道
 道を歩いて、一舟田の高田本山まで歩きます。
 距離約11kmコースです。
 現地で解散しますのでお弁当などを楽しんでくださ
 い。弁当・水筒・雨具などご持参ください。
 事前申し込みは不要です。

まちなかARTサミット
 ～あーやこーや 亀山で語ろう～
 日時：10月11日(日) 14:00～16:00
 場所：加藤家屋敷跡(亀山市西丸545-1)
 定員：50名(立ち見になる場合もあります)

連絡上、調整をさせていただきます。
 詳しくは亀山トリエンナーレ事務局まで
 問い合わせ：亀山トリエンナーレ事務局
 TEL: 090-8600-3011 (森)
 亀山市文化スポーツ室
 TEL: 0595-84-5079

参加費：1人200円 会員は無料
 問い合わせ：亀山あるこうかいクラブ 平塚
 TEL: 090-7864-3343

市民活動ニュース [2015.10]



中日新聞 [2015.10.9 (Fri)]



伊勢新聞 [2015.9.22 (Tue)]

亀山トリエンナーレ2017プレ企画展示 ～ART・時空を超えて～

期 間 2015年9月21日～11月29日
 来場者数 述べ1,500名
 展示会場 旧館家住宅 加藤家屋敷跡
 主 催 亀山トリエンナーレ2017実行委員会
 後 援 亀山市・亀山商工会議所
 協 力 近畿大学工業高等専門学校
 U R L <http://Kameyamatriennale.jp/>
 問合せ先 亀山トリエンナーレ事務局 〒519-0137 亀山市阿野田町1060 tel.0595-82-4125(森)
 亀山市文化スポーツ室 tel.0595-84-5079
 編 集 伊藤幸一 伊藤弘樹 今岡翔平 藤田はな 森 敏子
 発 行 2016年5月31日

